

2014年3月期 決算説明会資料



▲
ミセスファッション店
「BELLUNA」



▲
基幹カタログ
「ベルーナ」



▲
ギフトカタログ
「ベストサンクス」



▲
看護師向け通販
アンファミエの商品例

ベルーナ

2014年5月30日(金)

1. 決算ハイライト	P.2	3. 特集:組織再編	P.22
1. 決算概況		1. アンファミエの取得	
2. 連結損益計算書		2. ベストサンクスの取得	
3. 連結貸借対照表		3. ベルネットクレジットの譲渡	
4. 連結キャッシュフロー計算書			
5. 今期予算について			
2. セグメント別概況	P.10	4. 第二次短期経営計画	P.26
1. 総合通販事業		1. 経営環境の変化と新たな課題	
2. 専門通販事業		2. 経営基本方針	
3. 店舗販売事業		3. 経営基本方針に基づく取り組み	
4. ソリューション事業			
5. ファイナンス事業			
6. プロパティ事業			
7. その他の事業			
		5. 参考資料	P.35

・本資料は、2014年3月期決算業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2014年5月30日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

1. 決算ハイライト

BELLUNA

1. 決算概況
2. 連結損益計算書
3. 連結貸借対照表
4. 連結キャッシュフロー計算書

1-1. 決算概況

BELLUNA

(単位: 億円)

連結	13/3期	14/3期				15/3期	
		予算 ^{*1}	実績	予算比	前年比	予算	前年比
売上高	1,178.8	1,300.0	1,254.1	- 3.5%	+6.4%	1,280.0	+2.1%
売上総利益	657.2	719.1	687.4	- 4.4%	+4.6%	716.9	+4.3%
販売管理費	586.4	624.1	609.4	- 2.3%	+3.9%	632.9	+3.8%
営業利益	70.8	95.0	78.0	- 17.9%	+10.1%	84.0	+7.7%
経常利益	89.1	100.0	104.3	+4.3%	+17.1%	100.0	- 4.1%
当期利益	58.7	65.0	70.1	+7.9%	+19.5%	70.0	- 0.2%
包括利益	67.6	—	78.3	—	+15.9%	—	—
EPS(円) ^{*2}	60.2	66.8	72.1	+7.9%	+19.8%	72.0	- 0.2%
減価償却費 ^{*3}	24.7	25.0	27.3	+9.2%	+10.5%	30.0	+9.8%
設備投資額 ^{*4}	89.5	95.5	92.8	- 2.9%	+3.7%	95.0	+2.4%

*1: 2013年5月14日公表予算

*2: 2013年10月1日付にて普通株式1株から2株の割合で株式分割を行っております。EPSは当該株式分割を考慮し算定しております。

*3: 減価償却費には、無形固定資産関連の償却や長期前払費用も含む

*4: 設備投資額には、ソフトウェアなどの無形固定資産およびリース資産への投資額も含む

1-2. 連結損益計算書

BELLUNA

(単位: 億円)

連結	13/3期		14/3期		15/3期	
	実績	売上比	実績	売上比	予算	売上比
売上高	1,178.8	100.0%	1,254.1	100.0%	1,280.0	100.0%
売上原価	521.7	44.2%	566.7	45.2%	563.1	44.0%
販売管理費	586.4	49.7%	609.4	48.6%	632.9	49.4%
営業利益	70.8	6.0%	78.0	6.2%	84.0	6.6%
営業外損益	18.3	1.6%	26.3	2.1%	16.0	1.3%
経常利益	89.1	7.6%	104.3	8.3%	100.0	7.8%

【売上原価率】 前年比 +1.0P

- ・原価率の高い販売用不動産の売却増 +0.5P
- ・専門通販事業での原価率アップ +0.5P

【販売管理费率】前年比 -1.1P

- ・広告宣伝费率の改善 -1.1P
- ・貸倒損失・貸倒引当繰入の減少 -0.4P
- ・のれんの償却 +0.2P

【営業外損益】前年比 +8.0億円

- ・デリバティブ評価益 +6.4億円
- ・受取利息・配当金 +4.0億円
- ・投資事業組合運用損 -1.6億円

1-2. 連結損益計算書

BELLUNA

(単位: 億円)

▼ セグメント別売上高と営業利益

	14/3期 実績					
	売上高	前年比	営業利益*1	前年比	営業利益率	前年比
総合通販	753.9	-3.4%	15.8	-39.3%	2.1%	-1.2P
専門通販	272.7	+15.8%	15.4	-17.4%	5.7%	-2.3P
店舗販売	61.2	+22.5%	2.5	-22.4%	4.0%	-2.3P
ソリューション	46.4	+20.9%	20.4	+25.5%	43.9%	+1.6P
ファイナンス	38.8	+23.8%	10.7	—	27.5%	+28.1P
プロパティ	55.5	+229.3%	16.6	+219.0%	29.9%	-1.0P
その他	30.1	-3.2%	-2.4	-1,191.4%	-7.9%	-8.6P
連結消去	-4.5	—	-1.1	—	—	—
計	1,254.1	+6.4%	78.0	+10.1%	6.2%	+0.2P

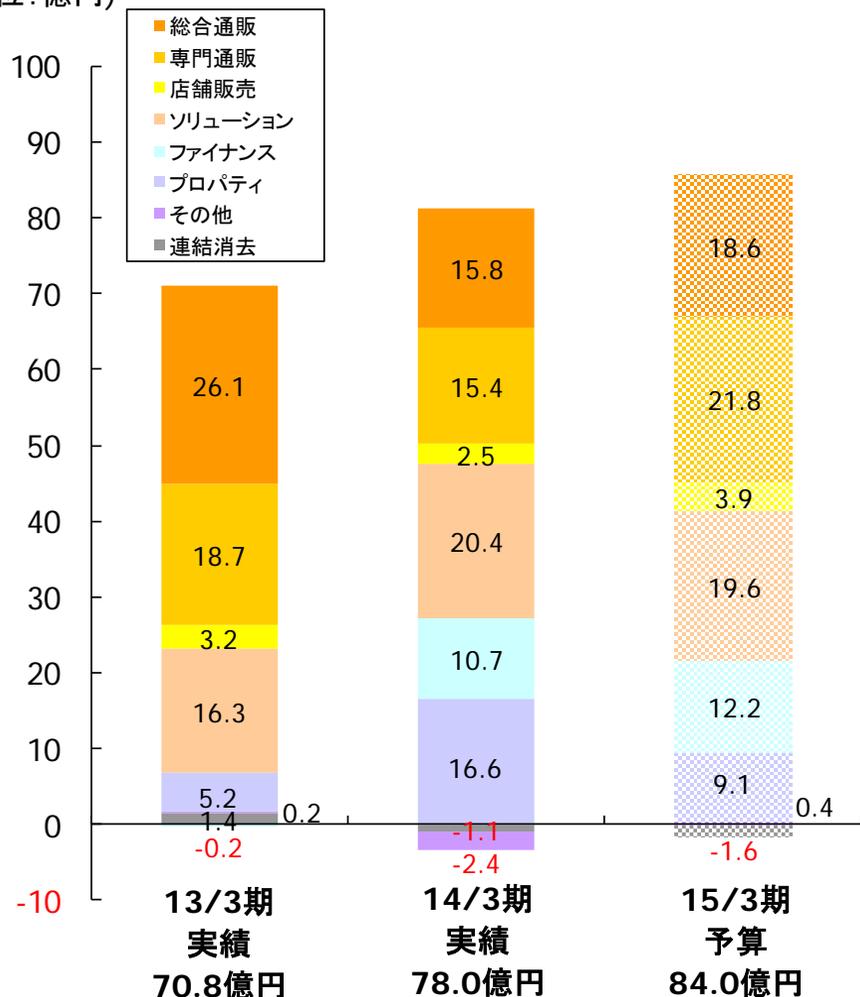
*1:「セグメント情報等の開示に関する会計基準」および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用しております。

本資料においてセグメントの「営業利益」と表示している場合は、「セグメント利益」となっております。

1-2. 連結損益計算書

▼ 営業利益^{*1}の変動要因

(単位:億円)



■ プロパティ事業 +11.4億円

- ・販売用不動産売却益 +8.6億円
- ・賃貸収入利益 +1.8億円

■ ファイナンス事業 +10.9億円

- ・貸付金利息収入の増加 +7.5億円
- ・貸倒損失・貸倒引当繰入減少 +4.3億円

■ 総合通販事業 -10.2億円

- ・物流費率の悪化 -7.0億円
- ・原価率の上昇(+0.5P) -3.9億円

■ 専門通販事業 -3.2億円

- ・原価率の上昇(+2.7P) -6.4億円
- ・媒体効率の改善 +3.1億円

*1:「セグメント情報等の開示に関する会計基準」および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用しております。

本資料においてセグメントの「営業利益」と表示している場合は、「セグメント利益」となっております。

1-3. 連結貸借対照表

BELLUNA

(単位: 億円)

	13/3末	14/3末	増減額
流動資産	650.9	666.7	15.8
現金及び預金	148.3	164.0	15.7
商品	127.5	143.3	15.7
販売用・仕掛不動産	39.2	14.6	-24.5
固定資産	499.9	639.8	139.9
有形固定資産	352.3	427.5	75.2
のれん	1.0	39.6	38.6
破産更生等債権	27.8	3.6	-24.1
総資産	1,150.8	1,306.5	155.7
負債	484.7	571.7	87.0
支払手形・買掛金	170.5	151.9	-18.6
有利子負債	132.4	253.9	121.5
純資産	666.1	734.8	68.7
利益剰余金	549.0	609.4	60.4
為替換算調整勘定	-9.0	-1.0	7.9
[自己資本比率]	[57.9%]	[56.2%]	[-1.6P]

1-4. 連結キャッシュフロー計算書

BELLUNA

(単位: 億円)

	13/3期	14/3期	
	実績	実績	前年比
営業活動によるキャッシュフロー	72.8	57.7	-15.1
販売用不動産の増減	-6.1	24.5	30.6
仕入債務の増減	20.2	-17.8	-38.0
投資活動によるキャッシュフロー	-76.3	-154.0	-77.6
有形固定資産取得による支出	-59.6	-87.4	-27.8
子会社株式の取得による支出	0.0	-70.5	-70.5
財務活動によるキャッシュフロー	21.1	107.2	86.1
長短借入金の増減	37.0	121.5	84.5
キャッシュに係る換算差額	0.5	0.8	0.3
キャッシュ増加額	18.0	11.7	-6.4

- ・販売用不動産の売却が増える一方で、仕入債務が減少したこと等で営業活動によるCFは前年比で減少。
- ・また吉見物流センター新築工事等の設備投資に加え、アンファミエやベストサンクスの株式取得による支出を長期借入金で賄ったことから、投資活動によるCFは大幅にマイナスとなった半面、財務活動によるCFは大幅なプラスとなった。

1-5. 今期予算について

BELLUNA

(単位: 億円)

短期経営計画との乖離

連結	13/3期	14/3期		15/3期		16/3期
	実績	短期計画*1	実績	短期計画*1	予算	短期計画*1
売上高	1,178.8	1,300.0	1,254.1	1,400.0	1,280.0	1,600.0
(内、総合通販事業)	(780.1)	(817.0)	(753.9)	(879.0)	(700.0)	(950.0)
営業利益	70.8	95.0	78.0	105.0	84.0	120.0
(営業利益率)	6.0%	7.3%	6.2%	7.5%	6.6%	7.5%
有利子負債*2	132.4	180.0	253.9	150~200	230~270	150~250
純資産	666.1	720.0	734.8	770.0	790.0	830.0
ROE	9.2%	9.3%	10.0%	8.5~9.5%	9.2%	8.5~9.5%

・短期経営計画初年度である前期は、主に総合通販事業での計画未達の影響で売上高・営業利益共に未達となるが、経常利益と当期利益が計画達成したことで、純資産・ROEの計画は達成。また、M&Aの実施によって当初計画より有利子負債が増えた。

→今期は、足許の状況を踏まえて減額予算としたが、最終年度の16年3月期には計画達成を目指していきたい。

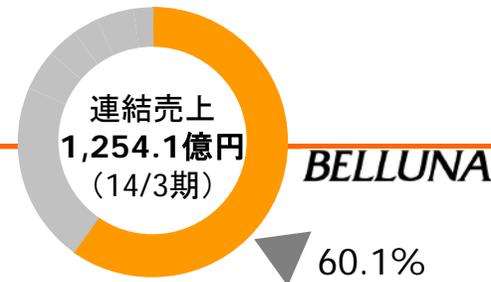
*1: 短期計画は、2013年5月31日発表の当初計画数値 *2: 当初想定していないM&Aや設備投資があれば、これを超える可能性あり。

2. セグメント別概況

BELLUNA

1. 総合通販事業
2. 専門通販事業
3. 店舗販売事業
4. ソリューション事業
5. ファイナンス事業
6. プロパティ事業
7. その他の事業

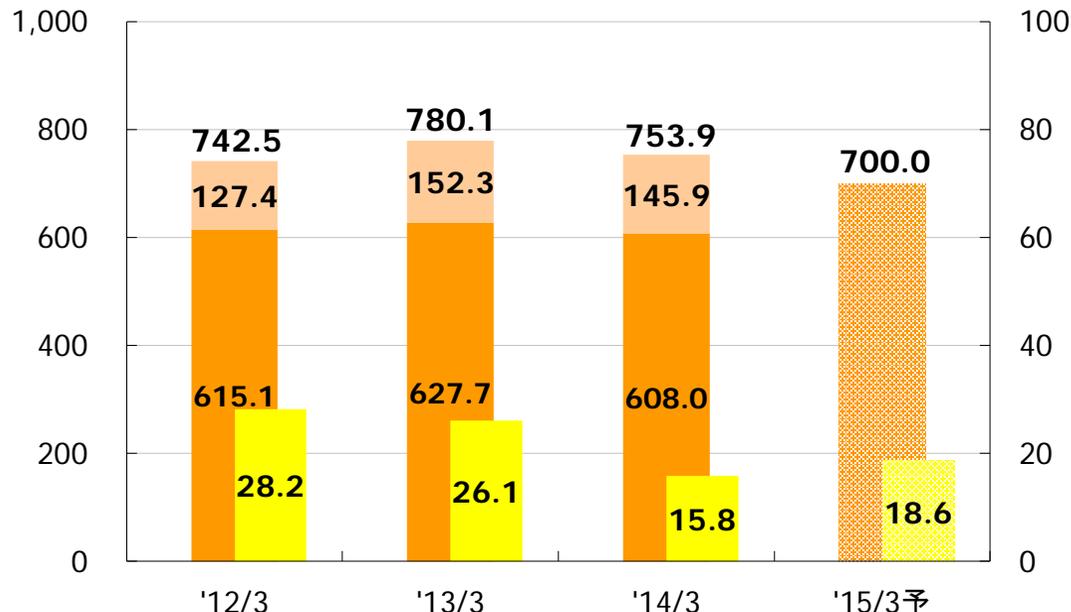
2-1. セグメント別概況：総合通販事業



▼【総合通販事業】実績と総括

(■カタログ／■EC 売上高:億円)

(■営業利益:億円)



	14/3期 実績	前年比
アクティブ会員数	448.2万人	-2.3%
登録会員数	1,573.8万人	+4.8%
新規顧客獲得数	71.6万人	-23.0%
受注単価	10,356円	-2.1%

▲各指標の実績推移は、コーポレートデータ(P.7)に掲載

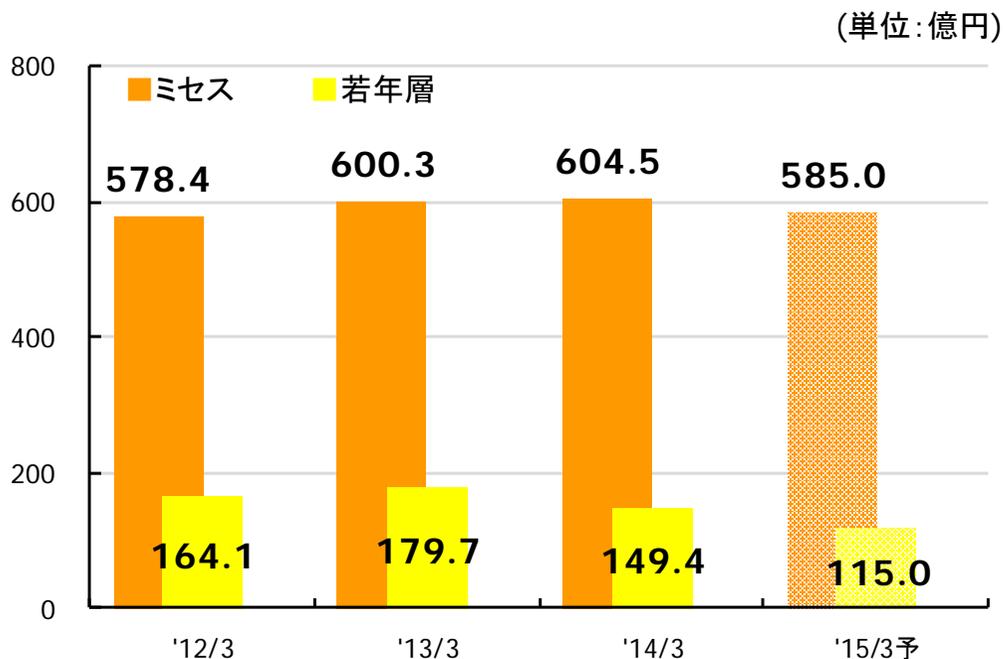
- ・低採算商品を絞り込んだことに加え、天候不順などもあって売上は前年比3.4%の減収。
- ・また、利益面も在庫増や受注単価の下落等で物流関連コストが上昇したことに加え、円安と在庫処分増による原価率上昇もあって減益となる。

→今期も引き続き低採算商品の絞り込みを行うため、減収となるが、受注単価の引き上げや原価率の改善により収益面では増益を見込む。

2-1. セグメント別概況：総合通販事業

BELLUNA

▶ ミセスと若年層の売上高の推移



・ミセス層向けは微増となるも、抑制気味にした若年層は大幅減となる。

→ 今後も収益性の高いミセス層に重点を置く。

EC比率	14/3期実績	前年比
全体	20.0%	-0.2P
内、(ミセス)	11.8%	+0.5P
(若年層)	50.4%	+0.3P

▲ 実績推移は、コーポレートデータ(P.8)に掲載



ミセスカタログ
「BELLUNA」



若年層向けカタログ
「RyuRyu」

2-2. セグメント別概況：専門通販事業

連結売上
1,254.1億円
(14/3期)

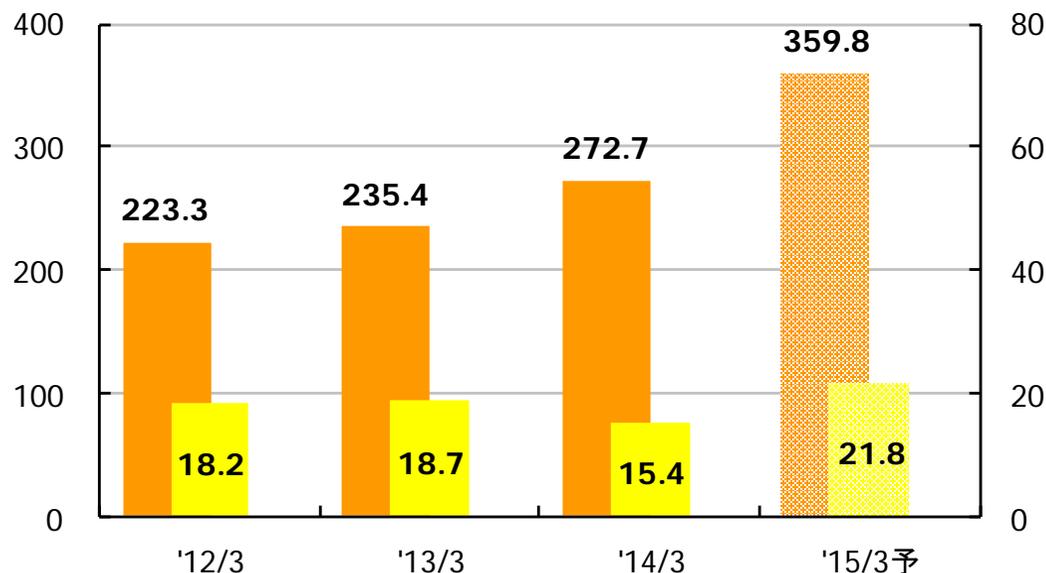
BELLUNA

【専門通販事業】実績と総括

21.7%

(■売上高：億円)

(■営業利益：億円)



・アンファミエとベストサンクスが新たに加わったことで、売上は前年比15.8%の増加となる。

・一方、収益面ではワイン事業で円安対応が遅れたことなどで減益となる。

→今期はワインの値上げが浸透してくることに加え、アンファミエの収益が1年間フルに寄与することなどで増収増益となる見込み。



①食品・花・ワイン
(単体)



②化粧品
(オージオ)



③健康食品(リフレ)

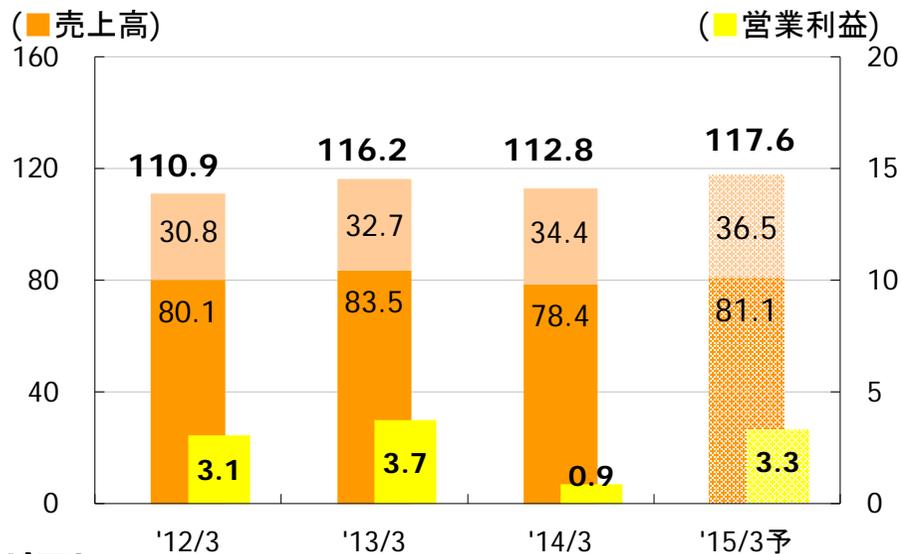


④看護師向け通販
(ナースリー)

2-2. セグメント別概況：専門通販事業

▶ グルメ

※上/フイン 下/食品+花

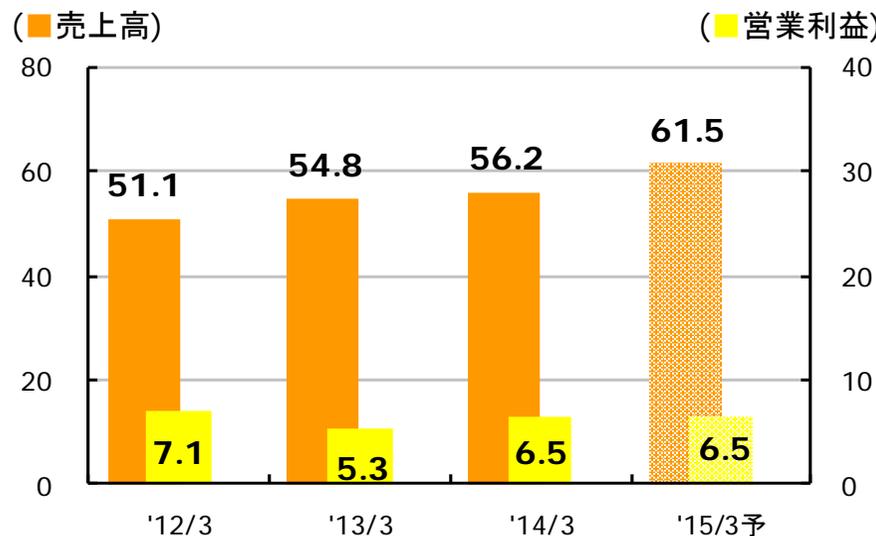


▶ オージオ

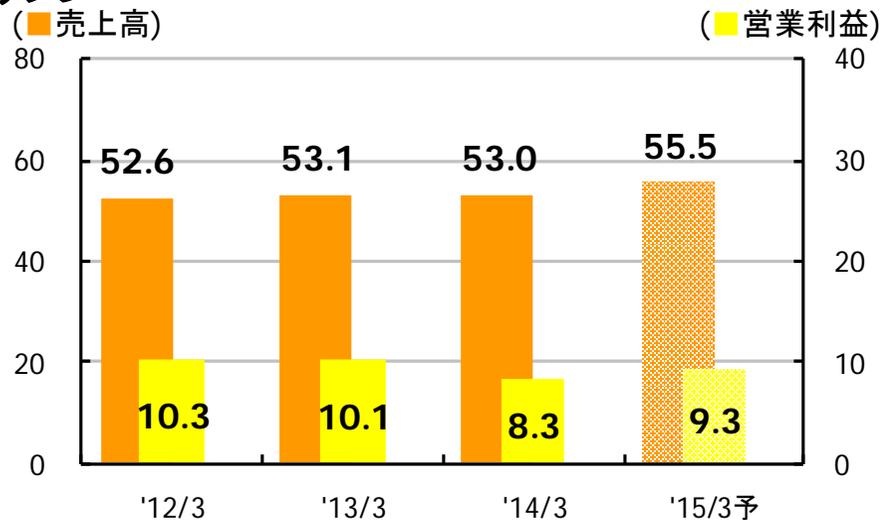
BELLUNA

(単位：億円)

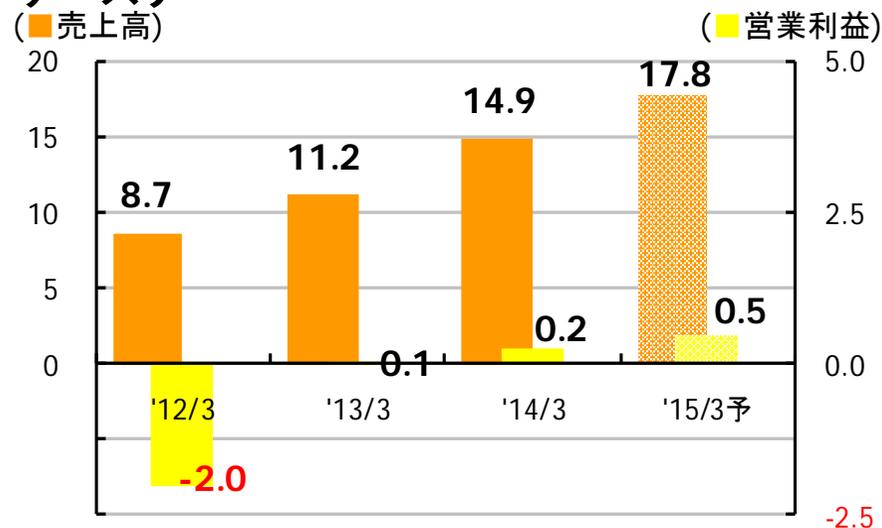
(■ 売上高) (■ 営業利益)



▶ リフレ



▶ ナースリー



*1: 上記売上高・営業利益には広告収入は含まない

*2: アンファミエ・ベストサンクスについてはP.23、P.24参照

2-3. セグメント別概況：店舗販売事業

4.9%

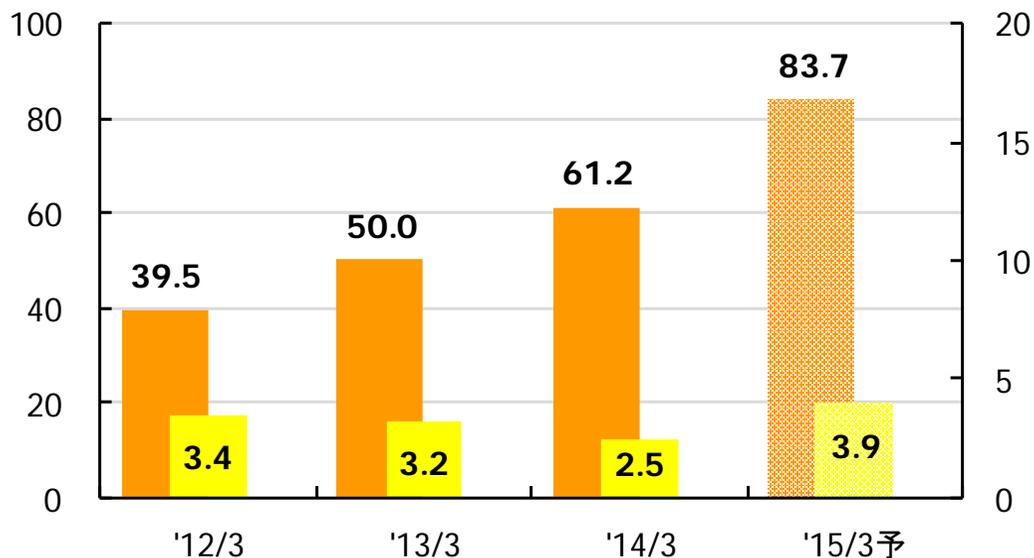
連結売上
1,254.1億円
(14/3期)

BELLUNA

▼【店舗販売事業】実績と総括

■売上高：億円

■営業利益：億円



・新規出店の遅れによりアパレル店舗の売上高は計画比未達となるも、和装店舗は既存店の売上増でカバーし、全体の売上高は前年比22.5%の増収。またアパレル店舗での新規出店費用増もあって収益面では前年比減益となる。

→今期は、出店ピッチを早め、店舗販売事業としては増収増益となる見込み。

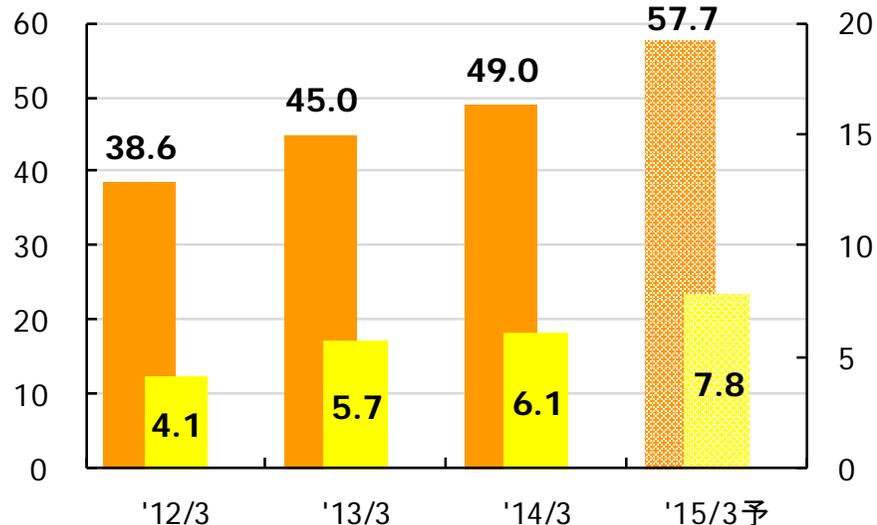
2-3. セグメント別概況：店舗販売事業

BELLUNA

①和装店舗

(■売上高)

(■営業利益)



[店舗数]

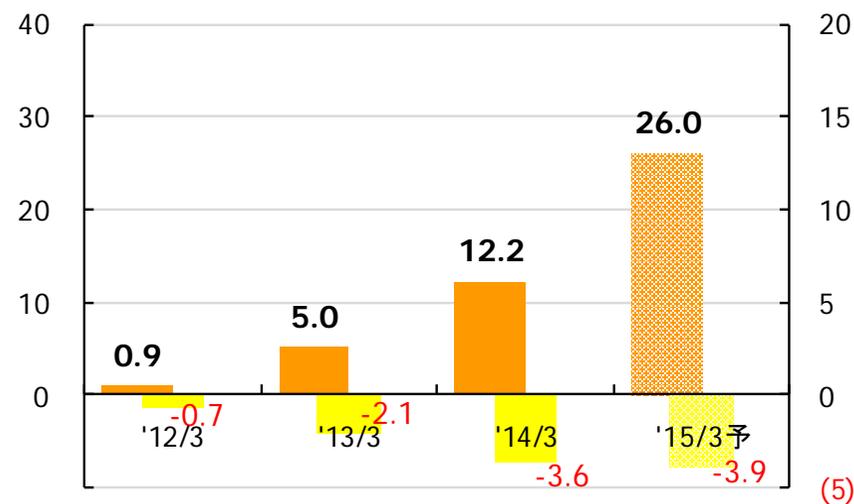
2014/3末時点 48店舗

→2015/3末予定 55店舗

②アパレル店舗

(■売上高)

(■営業利益)



(5)



[店舗数]

2014/3末時点 17店舗

→2015/3末予定 40店舗

2-3. セグメント別概況：ソリューション事業

3.7%

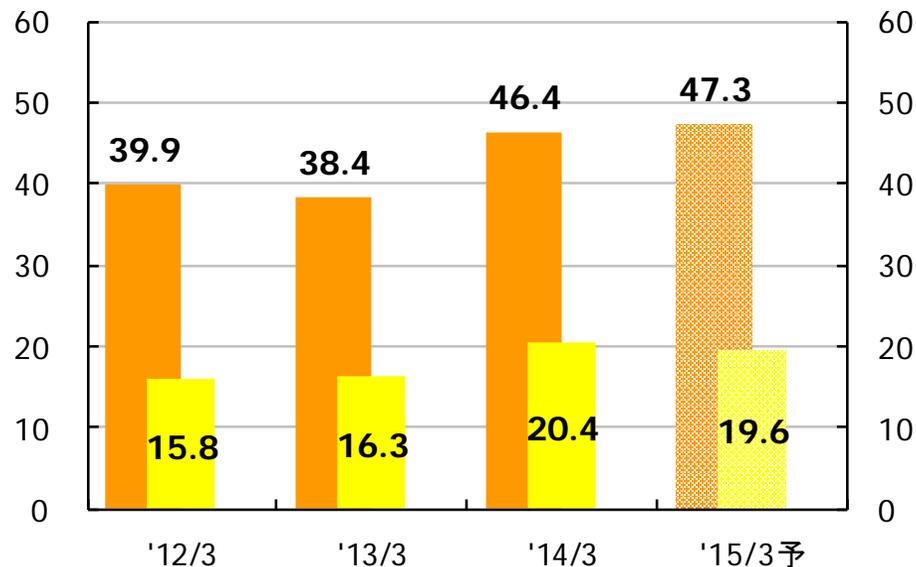
連結売上
1,254.1億円
(14/3期)

BELLUNA

【ソリューション事業】実績と総括

(■売上高：億円)

(■営業利益：億円)



【封入・同送サービス】

自社カタログ封入業務

商品同梱業務

【通販代行サービス】

コールセンター業務

商品発送業務

DM発送業務

システム管理業務、等



・封入・同送サービスと通販代行サービスが共に計画を上回る伸びを示し、売上高は前期比20.9%の増収となった。またそれに伴い、営業利益も前期比25.5%の増益を実現。

→今期は、広告表記に対する規制強化もあって、封入・同送サービスの売上は抑制気味とし、その分、通販代行サービスでカバーする計画。

2-4. セグメント別概況：ファイナンス事業

3.1%

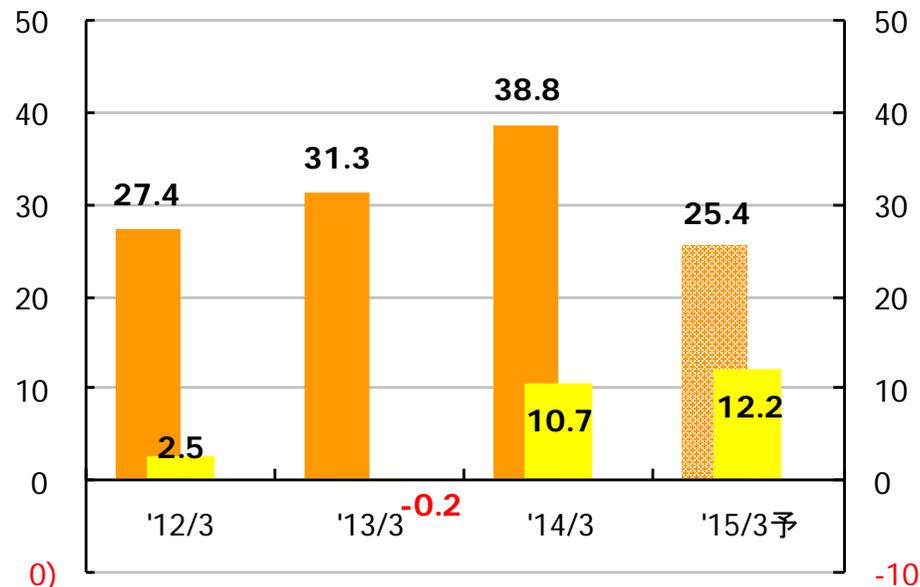
連結売上
1,254.1億円
(14/3期)

BELLUNA

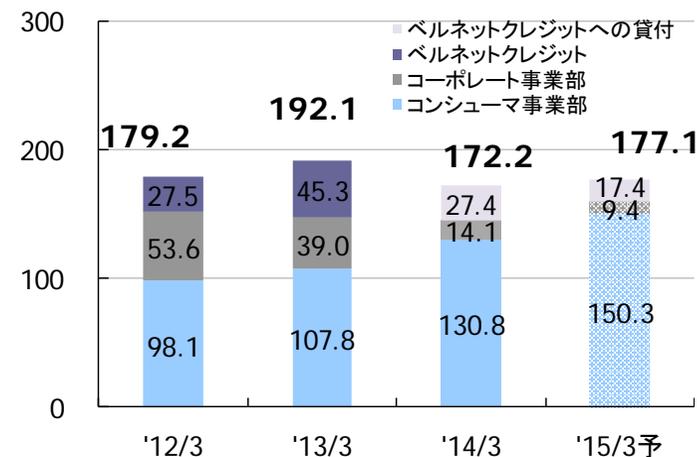
【ファイナンス事業】実績と総括

(■売上高：億円)

(■営業利益：億円)



《営業貸付金残高の推移》



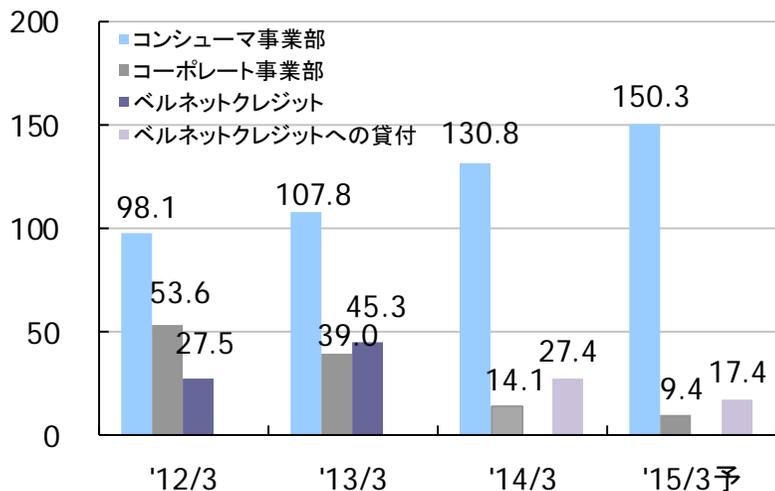
※各事業における「営業貸付金・貸倒率」等の指標の実績推移は、コーポレートデータ(P.13~16)に掲載

- ・国内の消費者金融事業を中心に、営業貸付金残高を伸ばしたことに加え、担保金融事業で貸倒引当金繰入額が大幅に減少したことなどで、大幅な増収増益となった。
 - ・また、14年3月にはベルネットクレジットを韓国の消費者金融会社に売却した。
- 今期も引き続き国内の消費者金融事業で営業貸付金を伸ばしていくが、ベルネットクレジットを売却したことで利息収入は減少する。

2-4. セグメント別概況：ファイナンス事業

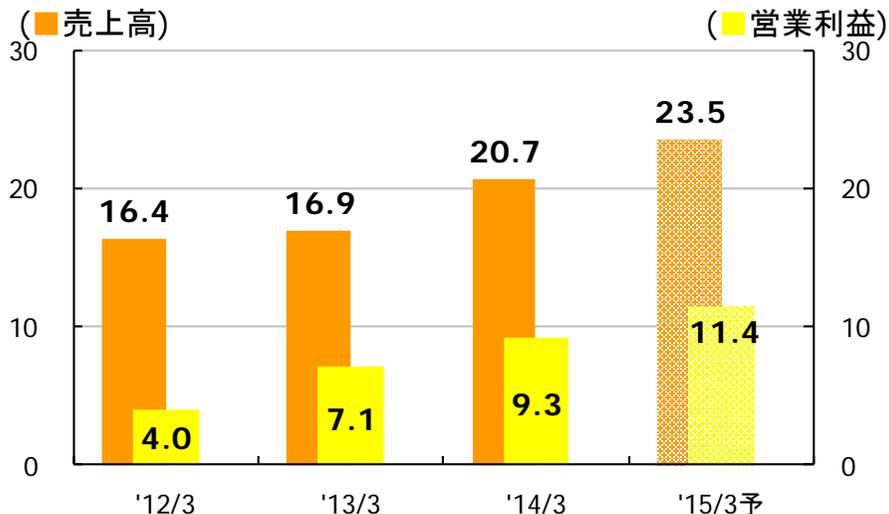
BELLUNA

《各事業別営業貸付金残高の推移》

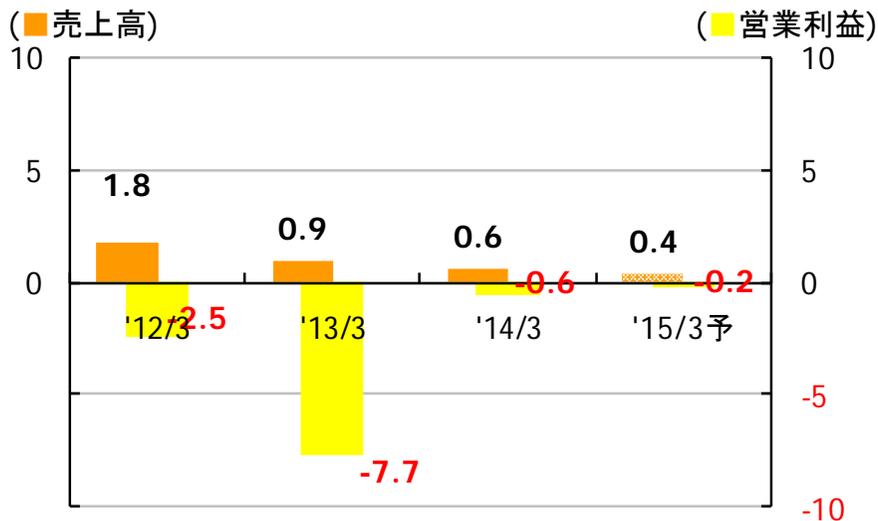


①コンシューマ事業部

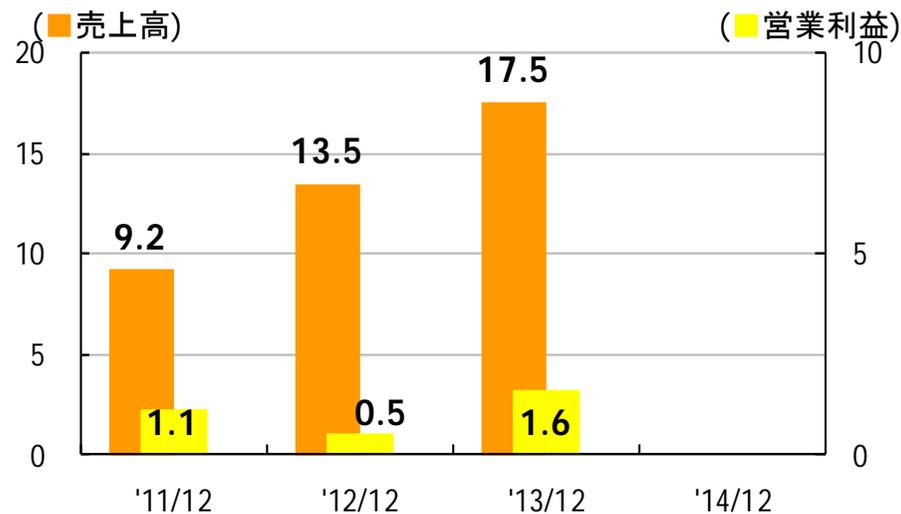
(単位：億円)



②コーポレート事業部



③ベルネット・クレジット



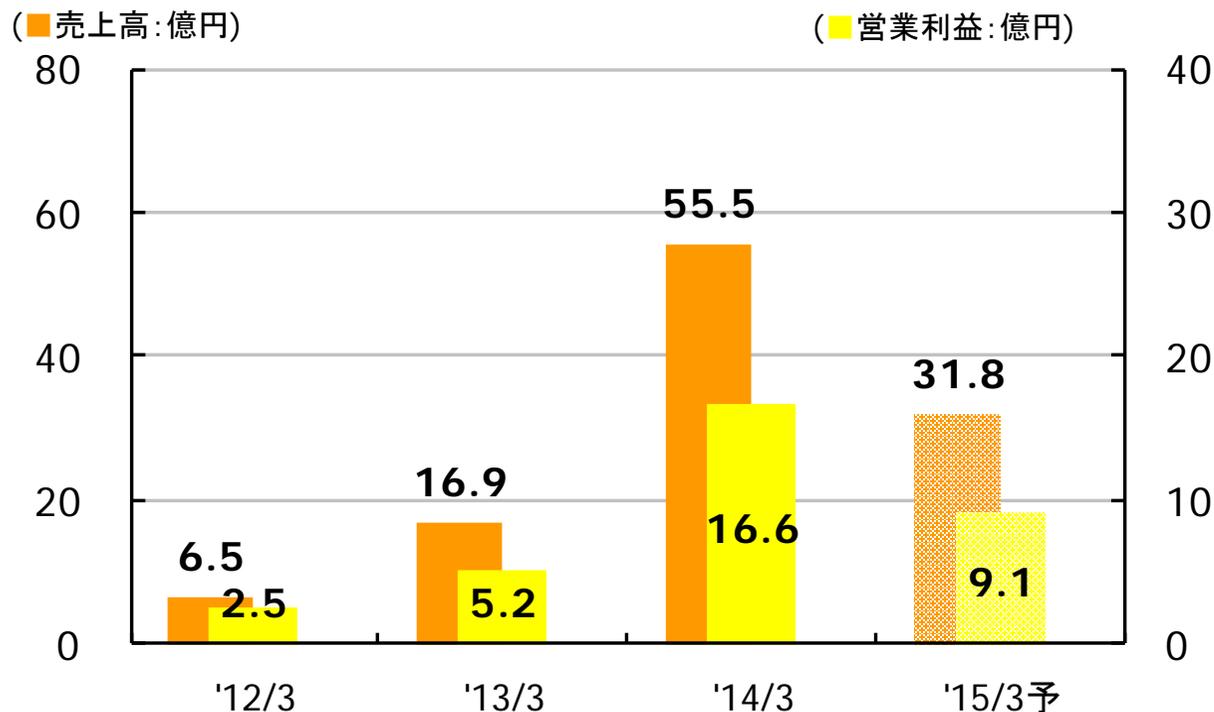
2-5. セグメント別概況：プロパティ事業

4.4%

連結売上
1,254.1億円
(14/3期)

BELLUNA

▼【プロパティ事業】実績と総括



・販売用不動産を9物件売却したことで大幅な増収増益を実現。

.....不動産売却額 44.6億円 売却利益 12.1億円

→今期は安定的な賃貸収入増を狙っていくが、販売用不動産も少なくなってきたことから、減収減益となる見込み。

2-6. セグメント別概況：その他の事業

2.4%

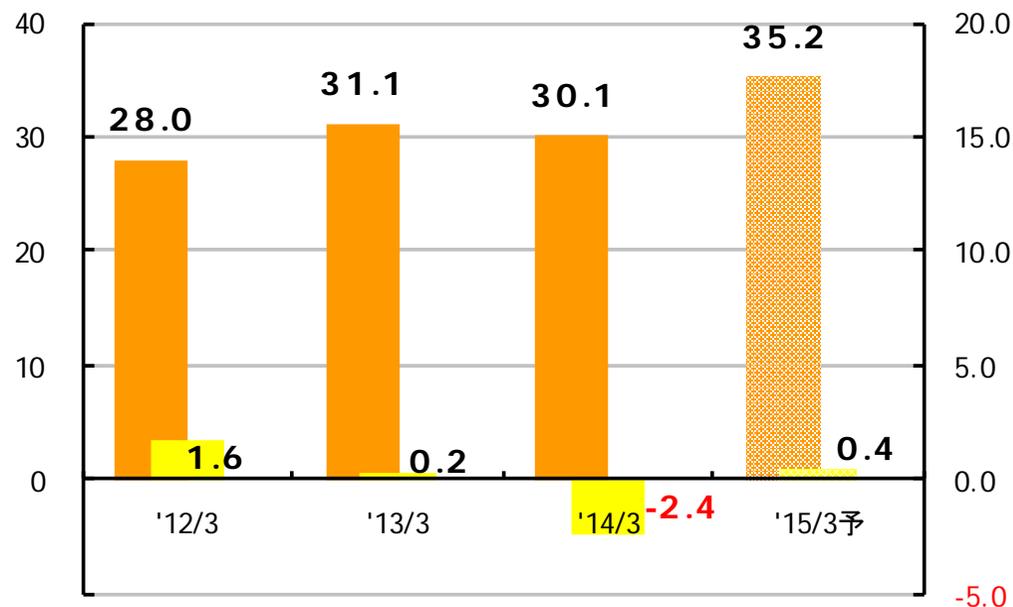
連結売上
1,254.1億円
(14/3期)

BELLUNA

▼【その他の事業】実績と総括

(■売上高:億円)

(■営業利益:億円)



- ・アパレル卸事業をしている(株)フレンドリーの売上が減少したこともあって、売上高は前期比3.2%の減収となる。
- ・また新規事業の固定費負担などで営業損失を計上。
→今期は固定費の削減を図り、営業黒字を目指す。

3. 特集：組織再編

BELLUNA

1. アンファミエの取得
2. ベストサンクスの取得
3. ベルネットクレジットの譲渡

3-1. アンファミエの取得

▼ アンファミエ取得の狙い

1. アンファミエはBtoC看護師通販事業で最大シェアを保有しており、同業のナーズリーも加えて圧倒的シェアを確保できる ~「看護師向け通販 日本一」の実現
2. 取扱いロット拡大による商品調達力の向上および販促コストの抑制
3. ベルーナグループ他事業(ソリューション事業など)への横展開
4. 介護ビジネスへの足掛かり



(単位: 億円)



看護師向け通販カタログ
「アンファミエ」

▼ 取得価額

54.1億円

▼ 業績への影響

	14/3期 実績 ^{*1}	15/3期 計画
売上高	31.3 ^{*2}	74.8
営業利益	2.7	8.2
のれん償却	2.5	4.2

*1: 7ヶ月間(13年9月~14年3月)の実績 *2: 内、封入・同送サービス1.4億円

3-2. ベストサンクスの取得

▼ ベストサンクス取得の狙い

1. 事業領域の拡大(ベビー事業、マタニティ事業、ギフト事業)
2. ベルーナグループ他事業への横展開

▼ 取得価額

18.2億円



ギフトカタログ
「ベストサンクス」



ベビーカタログ
「メイプルランド」



マタニティカタログ
「モンテール」

▼ 業績への影響

(単位: 億円)

	14/3期 実績 ^{*1}	15/3期 計画
売上高	4.5	34.2
営業利益	-1.7 ^{*2}	-1.9

*1: 2ヶ月間(14年2月~14年3月)の実績 *2: 受託手数料0.6億円含む

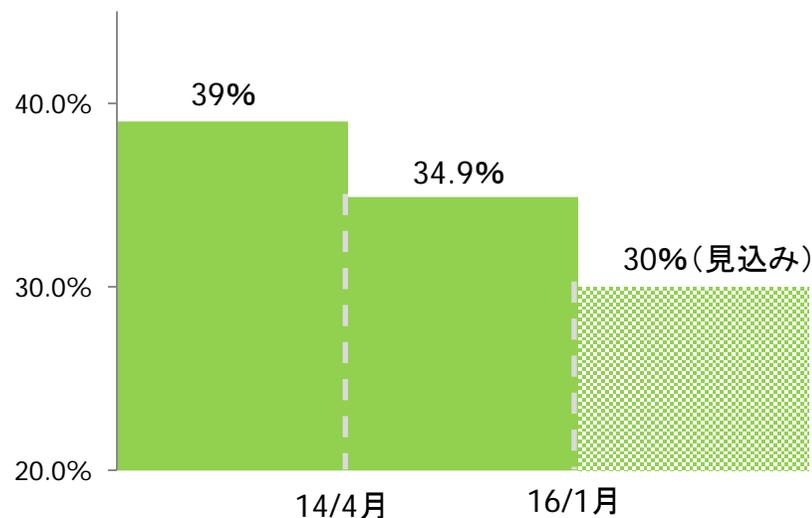
14/3期 特別利益(負ののれん発生益) 2.8億円

3-3.ベルネットクレジットの譲渡

ベルネットクレジット譲渡の理由

1. 韓国の貸金業を取り巻く環境の悪化
 - ・貸付上限金利の引き下げ
 - ・貸倒率の高止まり
2. より成長性の高い分野への経営資源投下

《韓国の貸付上限金利の推移》



譲渡価額等

譲渡先 : 株式会社テムコ(韓国)
譲渡株式数 : 6,250,000株
譲渡価額 : 248.2億ウォン(約24.0億円)
譲渡完了日 : 2014年3月28日

業績への影響

14/3期 特別損失(株式売却損) 5.8億円

※ベルネットクレジットに対する貸付金約30.5億円は、一部内入後、分割で弁済を受ける(営業貸付債権120%担保)
内入れ後の貸付金残高(14/3末)27.4億円

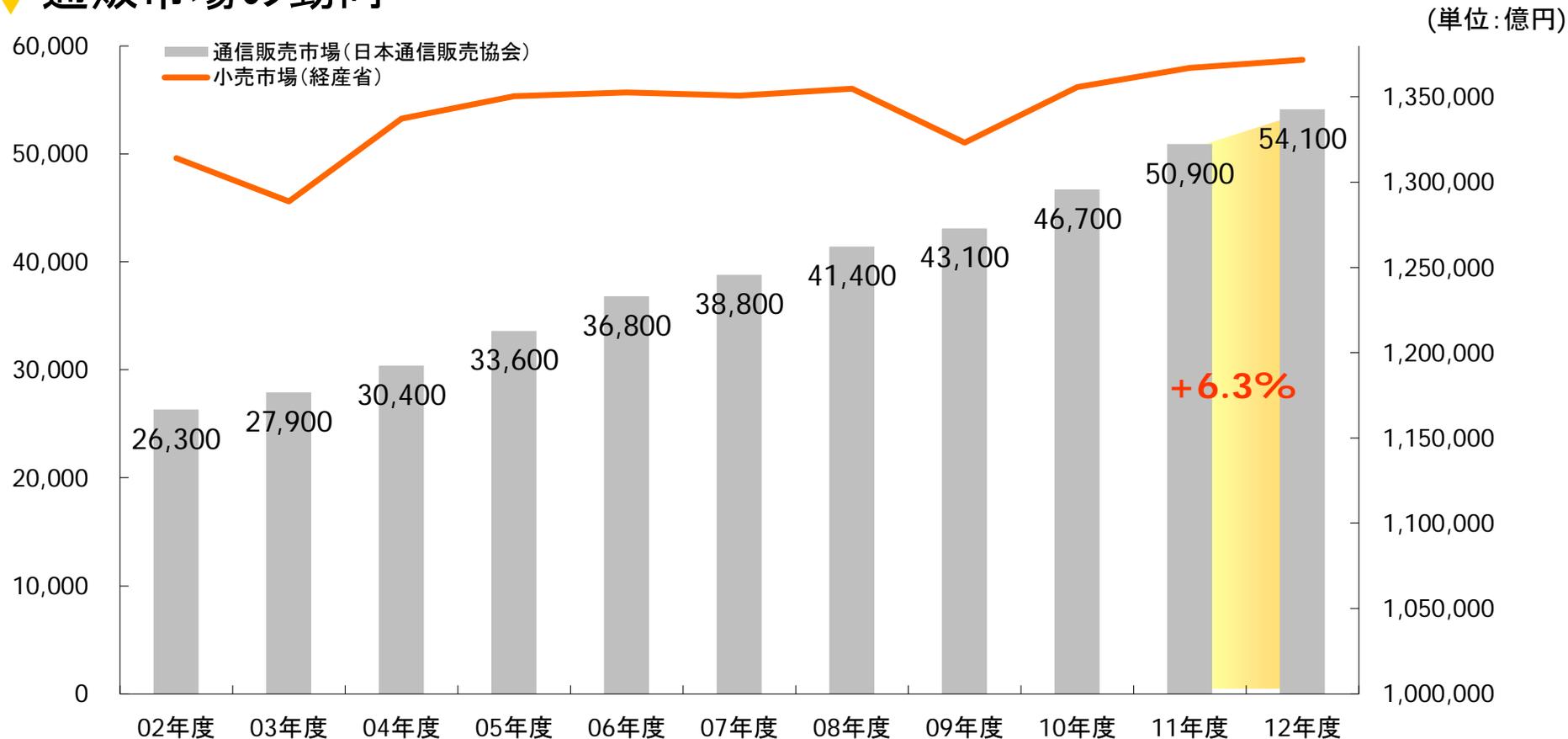
4. 第二次短期経営計画

BELLUNA

1. 経営環境の変化と新たな課題
2. 経営基本方針
3. 経営基本方針に基づく取り組み

4-1. 経営環境の変化と新たな課題

通販市場の動向

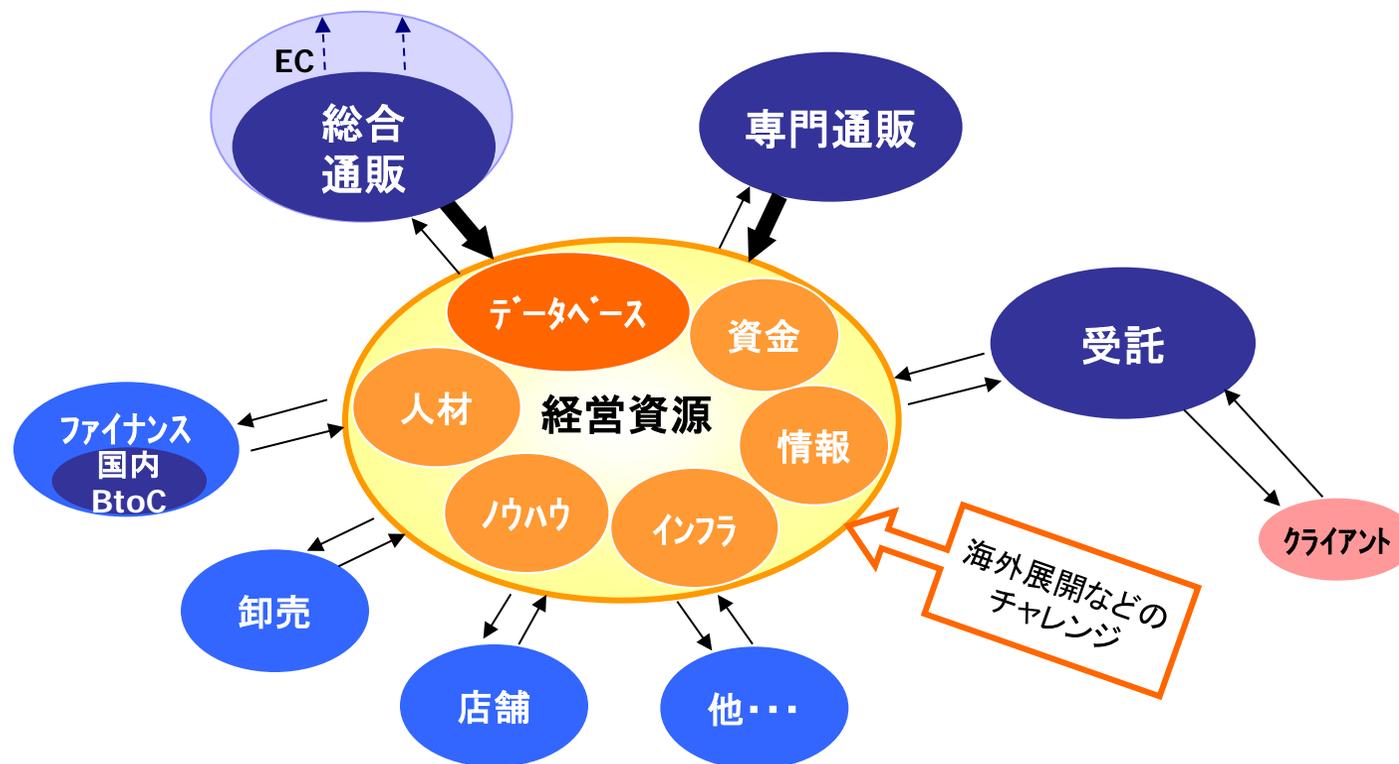


※日本通信販売協会「2012年度通販市場売上高調査」/ 経済産業省「商業販売統計年報」を元に加工

小売市場が一進一退を繰り返している中、通信販売市場は年々拡大傾向を続け、12年度は前年比6.3%増となった。特に、インターネットとモバイル通販の成長が著しい。

4-2. 経営基本方針

データベースを核としたビジネス展開の発展型「通販総合商社」



複数事業のシナジー効果で、高い成長性と収益性の実現を目指すビジネスモデル

- ① 総合通販で培った「顧客データベース」を活用し、
専門通販・受託などの【データベース関連事業】で安定した収益基盤を作る
- ② 更に、卸売や店舗などの【新たな事業】群でプラスαの収益を生む
- ③ 海外展開などのチャレンジも戦略的に行い、次なる成長の芽を育てる

▼ 経営基本方針

“通信販売総合商社”の熟成

1. ポートフォリオ経営の強化
2. 新たな事業の成長促進
3. 通販インフラの整備
4. 株主還元の見直し

4-3. 経営基本方針に基づく取り組み

▼ 基本方針1 ポートフォリオ経営の強化

■ 総合通販事業 ～新たな成長のための土台作り

- ・10%受注単価向上
- ・不採算媒体の廃止・縮小、掲載商品数の削減
- ・在庫削減・適正化による実質的原価率の低減

■ 専門通販事業 ～利益を確保しながら成長に重点

- ・ワイン事業・円安を反映した価格の浸透
- ・看護師向け通販事業・圧倒的なシェアを背景にした積極販売攻勢
- ・健食・化粧品・利益額を維持しながら、成長性を追求

■ ソリューション事業 ～収益強化と成長の実現

- ・収益性を確保しながら新規顧客を獲得

4-3. 経営基本方針に基づく取り組み

BELLUNA

▼ 基本方針2 新たな事業の成長促進

① 店舗販売事業の拡大

- ・アパレル・・・今期中に24店舗出店／1店舗退店予定
2014/3末 17店舗 → 2015/3末 40店舗
- ・和装・・・・・・今期中に7店舗出店
2014/3末 48店舗 → 2015/3末 55店舗



BELLUNA 上尾店

② 海外事業展開の促進

- ・中国を中心としたアジアへのワイン、日本酒等の卸販売の拡大

4-3. 経営基本方針に基づく取り組み

▼ 基本方針3 通販インフラの整備

吉見物流センターの新設（投資総額約130億円）

- ・2014年8月から本格稼働 ～工事は予定通り進行（建物は完工）
- ・稼働に合わせて

賃借倉庫（総合通販事業で6カ所賃借）を返却

既存の物流拠点は、専門通販事業で継続使用するほか、ソリューション事業（受託業務）と賃貸事業で活用

〔投資効果〕（年間ベース/総合通販事業のみ）

投資によるコスト増 +8.9億円

減価償却	+6.8億円
固定資産税	+1.3億円
水道光熱費	+0.8億円



コスト減 -10.3億円

物流人件費	-4.2億円
倉庫賃借料	-3.4億円
物流外注費	-2.7億円

- ・サービス面では、当日出荷が可能となる。

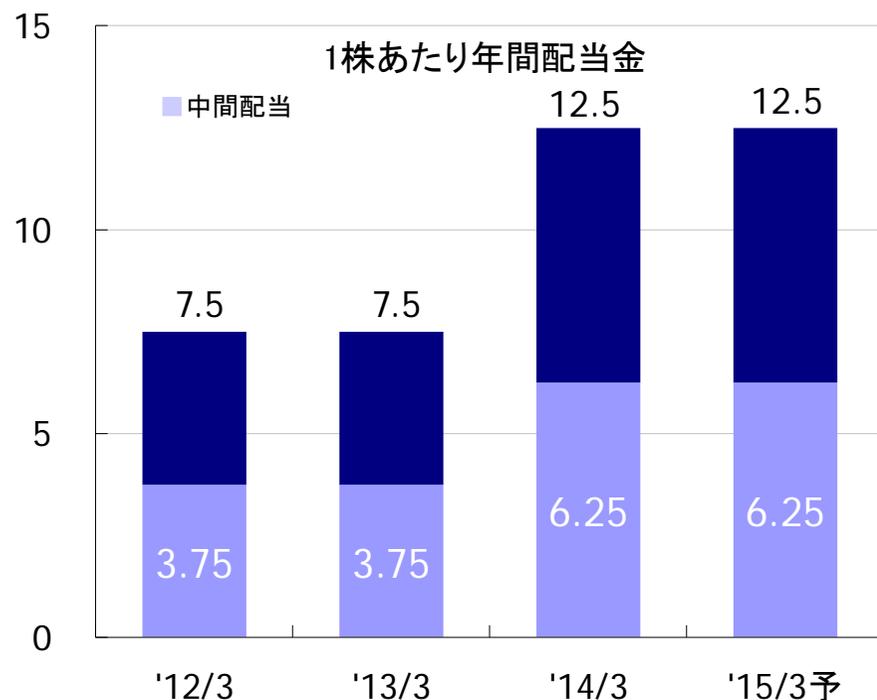
4-3. 経営基本方針に基づく取り組み

基本方針4 株主還元の見直し

配当の見直し

14年3月期は一株あたり5円増配

(13年3月期)年間 7.5円 → (14年3月期) 年間 12.5円



2013年10月1日付で

当社普通株式1株→2株に分割

単元株式数を50株→100株に変更

今期は、総合通販事業が新たに飛躍するための土台作りをすると共に、第二次短期経営計画の営業利益目標の前倒し達成を目指し、経営資源を最大限に活用していきたい。

5. 参考資料

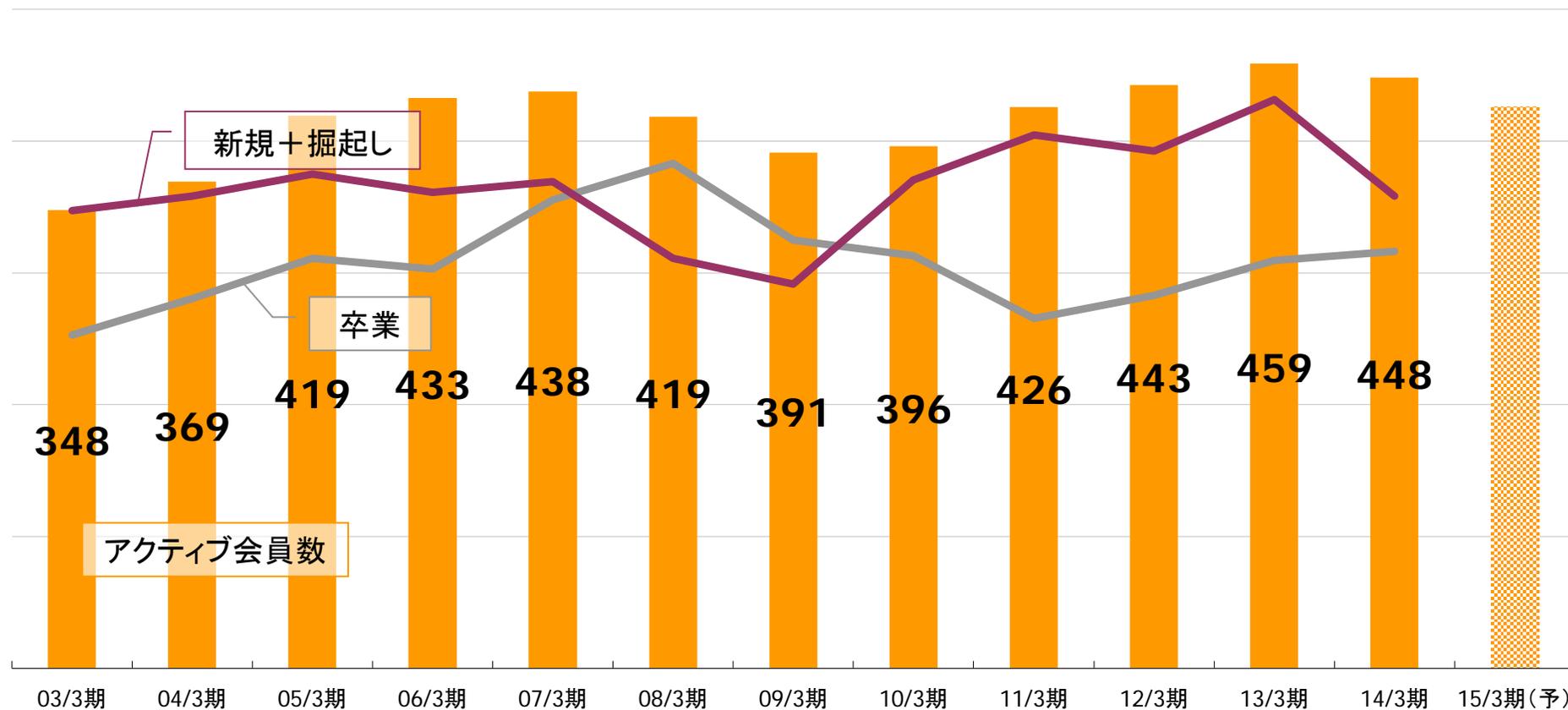
BELLUNA

1. 【総合通販事業】アクティブ会員数の推移
2. 【総合通販事業】登録会員の特徴

5-1. 【総合通販事業】アクティブ会員数の推移

▼ アクティブ会員数の推移

(単位: 万人)

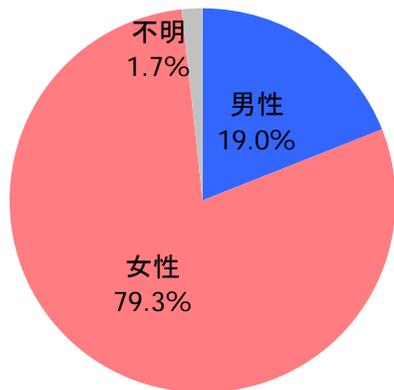


5-2. 【総合通販事業】登録会員の特徴

登録会員の特徴 (2013年9月末時点)

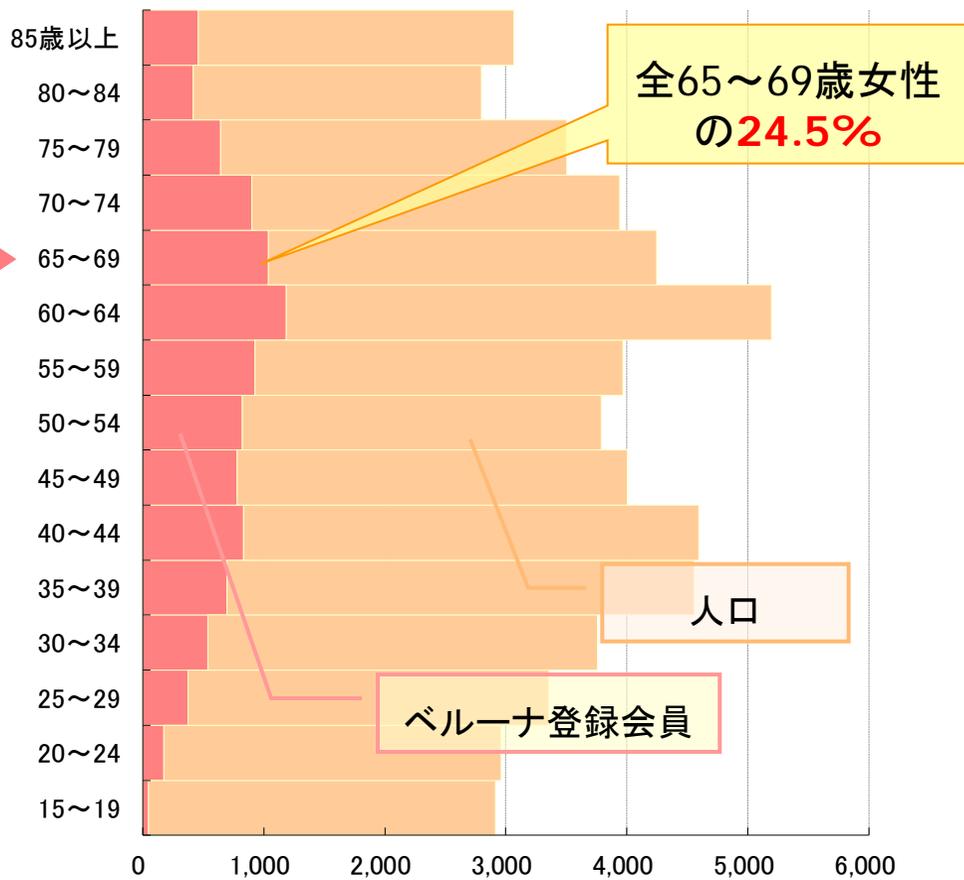
<登録会員数> **1540.7万人** (前年対比+5.8%)

<性別>

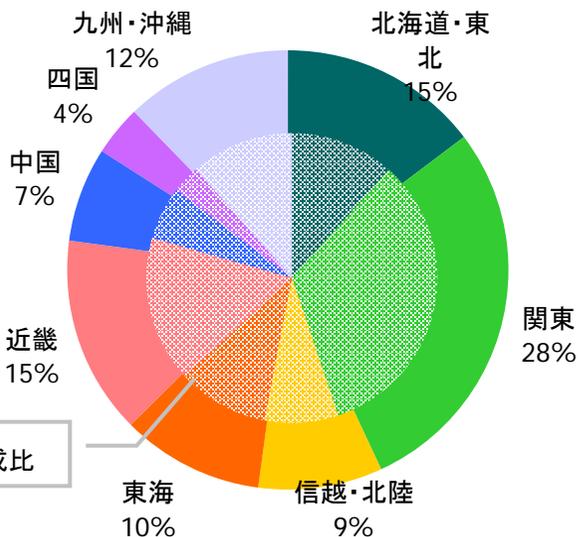


<人口ピラミッドとの比較(女性のみ)>

(単位:千人)



<地域>



地域別の人口構成比

※総務省統計局データを元にベルーナにて作成